

令和元年度スーパーグローバル大学創成支援事業プログラム委員会（第2回）議事概要

1. 日 時：令和2年3月2日（月）15：30～17：30

2. 場 所：弘済会館「萩」

3. 出席者：

（委員）明石 委員、岡島 委員、小川 委員、帯野 委員、梶山 委員、木村 委員、
佐藤 委員、日比谷 委員

（文部科学省）森 大臣官房審議官、林 高等教育局高等教育企画課国際戦略分析官、
佐藤 同国際企画室長、吉岡 同専門官 ほか

（事務局）家 独立行政法人日本学術振興会理事、成田 同人材育成事業部大学連携課長 ほか

4. 概要

（1）令和2年度予算案について

○「資料1 令和2年度政府予算（案）」に基づき、文部科学省から説明があった。

（2）令和2年度中間評価について

○「資料2 令和2年度実施中間評価に係る基本的方針（改正案）」、「資料3-1 中間評価要項（改正案）」、「資料3-2 中間評価面接評価実施要領（案）」、「資料3-3 中間評価現地調査実施要領（案）」、「資料3-4 中間評価令和2年度調書（案）」、「資料3-5 中間評価スケジュール」に基づき、文部科学省及び事務局から説明があった。委員からの意見は特になし。

（3）事業の具体像を踏まえたロジックモデルの改訂について

○「資料4 ロジックモデル（改訂版）」に基づき、文部科学省から説明があった。委員からの主な意見は次のとおり。

- ・ロジックモデルの中で初期アウトカムとして記載されているガバナンスや組織、教育・研究の分野ごとにどのようなインパクトがあったのかを論理的に記載すると良いのではないかと。
- ・アクティビティやアウトプット、初期アウトカム、中・長期アウトカムよりも、事業がもたらすインパクトの記載をより際立たせるような工夫が必要であると。
- ・産学連携の観点から中・長期的に必要とされる人材の育成のほか、リカレント教育や社会人学生の受入が重要であると。
- ・産学連携とともに地域連携も重要で、それによって地域の中学校や高校を国際化していくことにつながるため、ロジックモデルにおいても項目として盛り込む必要があるのではないかと。
- ・EUのエラスムス計画が2013年に実施した、計画による教育プログラムがもたらすインパ

クトに関する調査によると、学生が身に付けるべき異文化理解や決断力などの6つの資質が、プログラムに参画した学生はそれ以外の学生と比較して倍高い数値を示している。日本ではどのような人材を育成すべきかに着目する一方で、EUでは資質を重視していることを示している。

(4) その他

- 『『スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会』の審議内容等の取扱いについて』
(平成26年4月8日スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会決定) 1. (1)
① (審査・評価に関する調査審議など公平・公正な審査に影響を及ぼすことが懸念される場合) に関する事項の審議は非公開とすることとしていたところ、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から傍聴を中止したことに伴い、公開を予定した上述の(1)～(3)に関する審議部分についてのみ録画した上で、後日ウェブサイトにて公開することとなった。